

集中治療科

1. 2006 年度の目標及び方針

1) 診療

集中治療室におけるガイドラインの制定により、診療の質を向上すると同時に集中治療における医療事故の減少を目指す。

呼吸ケアチームを発足させ、人工呼吸管理の質を向上させる。

2) 教育

集中治療科専属フェローを増員する。

他科・他院からのローテーションを積極的に受け入れ、急性期医療の基礎を指導する。

3) 研究

集中治療管理における質的研究を行う。

2. 2005 年度評価 2006 年発足のため該当なし。

3. 業務内容、スタッフの紹介

当科は 2006 年 4 月に新規設立された。当科の業務は重症疾患における全身管理が主である。救急からの重症患者の入院、院内での急変、緊急手術の術後管理に対応する。扱う疾患群は多岐に渡るため他の診療科と密に連絡を取り合いながら診療を行う。また医師、看護師のみならず各種療法士、栄養士、薬剤師など多職種でのチーム医療により医療の質の向上を目指す。

教育面では、院内における急性期医療の質を向上すべく当科設立以前より研修医師対象に定期的に講義を行っている。今年度は集中治療科専属フェローが就任し、また院内外からのローテーションを常時 2~3 人受け入れることになっており一層教育内容を充実させる。

2006 年 4 月当科設立と同時に設置された呼吸ケアチームにおいても呼吸器内科と共に中心的役割を担い、急性期はもちろん亜急性期から慢性期の人工呼吸管理を行う。

【スタッフ紹介】

田中竜馬(部長代理)：主治医権あり。1997 年京都大学卒業。沖縄県立中部病院にて初期研修を行う。

1999 年より 6 年間米国にて臨床医として一般内科、呼吸器内科、集中治療科に従事する。2005 年 8 月に亀田総合病院呼吸器内科部長代理に就任。2006 年 4 月より現職。米国内科専門医、米国呼吸器内科専門医、米国集中治療科専門医

清河宏倫(フェロー)：2003 年千葉大学卒業。町田市民病院にて初期研修を行う。2006 年 4 月に集中治療科フェローとして就任。

4. 年間活動内容該当なし。

5. 教育・勉強会

全症例について毎日研修医によるプレゼンテーションと体系的なディスカッションを行う。

ジャーナルクラブ：集中治療領域における最新の知見を吟味すると同時に文献解釈の仕方を学ぶ。
コアレクチャー：プログラム責任者による体系的講義。急性期医療における病態生理を学習する。

6．学術関係該当なし。

文責：田中竜馬